

平成24年度第1回資産運用評価委員会 議事要旨

1. 日時 平成24年6月18日（月） 13:00～15:20
2. 場所 ニッセイ池袋ビル 19階役員会議室
3. 出席者 奥村委員、小粥委員、鈴木委員、米澤委員（宮森委員欠席）

4. 議事要旨

- (1) 平成22年度評価報告書における指摘事項対応状況の報告について（資料1）

〔主な意見等〕

○特段なし

- (2) 平成23年度資産運用結果報告について

各事業本部の資産運用結果について以下の順で報告がなされた。

（中退共本部、建退共本部給付経理・特別給付経理、清退共本部給付経理・特別給付経理、林退共本部）

〔主な意見等〕

中退共（資料3）

○エマージング株式投資の導入について質問があった。

○国内債券、国内株式、外国債券、外国株式のベンチマーク比がいずれもプラスにもかかわらず、複合ベンチマーク比がマイナスになることについての質問があった。

建退共（資料4）、清退共（資料5）、林退共（資料6）

○定性評価の方法について、考え方の確認、整理は必要ではないかとの意見があった。

【全体について】

○累積欠損金を考慮すれば、最近の難しい市場環境に即して、より安定収益を重視するポートフォリオが望ましいのではないかとの意見があった。

○A I J問題を受け、機構内での検討・議論した内容について質問があった。

○委託運用先に対する評価方法や定量評価と定性評価による評価状況について質問があった。

○国内株式の収益率について、リスクだけあってリターンが伴わないので、規模の小さな経理では、本当に株式が必要か、株式を含まなければ国債の利回り並になるが、それで耐えられるかということを考えてもよいのではないかとの意見があった。

○収益が市場環境に大きく左右されるなかで、資産規模との関係で、自家運用の比率を上げる・委託先数を減らすなどで、コストを節約することを考えてもよいのではないかとの意見があった。

【今後の予定について】

○次回7月5日の第2回委員会においては、本日の審議を踏まえた「運用の目標等の部分に関する評価報告書（案）」を事務局で用意し、それについて審議することとされた。

以上